



操作/整備説明書

Enerpac爪付ジャッキ TJP308

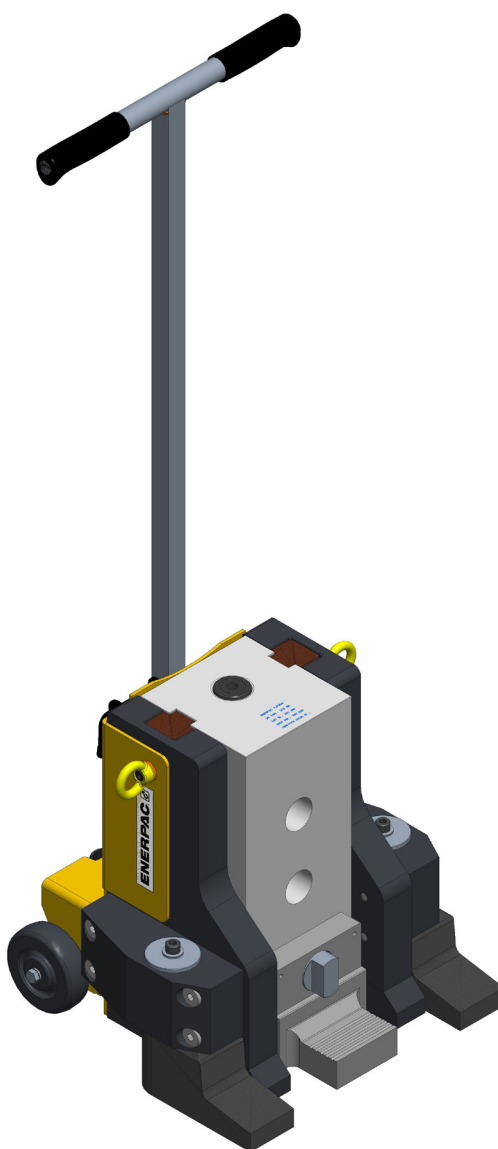
製品日付コード:A

文書番号:L4705

文書改訂:A

文書改訂日:2026年5月11日

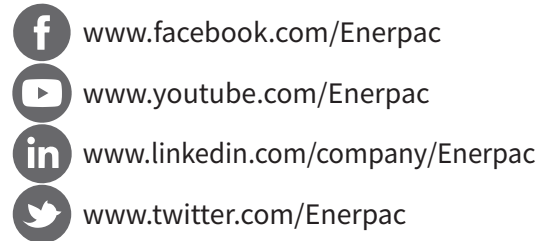
文書言語:日本語 JA



けがを防ぐため、ご使用前に本説明書をよくお読みください。

ENERPACについて

Enerpac (エナパック) は、高圧油圧工具、圧力制御機器、可搬式工作機械のほか、重量物を高精度で取り扱うオンサイトサービス/ソリューションのグローバルリーダーです。100年の実績と革新性を誇るエナパックは、世界最大級の構造物の移動と整備をお手伝いしてきました。エナパックの高品質の工具、サービス、ソリューションは、航空、インフラ、製造、採掘、石油/ガス、発電など、安全性と精度が重視される業界の大手企業から信頼をいただいています。詳細は、www.enerpac.comをご覧ください。



保証

製品保証の条件については、Enerpacグローバル保証文書を参照してください。保証に関する情報は、www.enerpac.comをご覧ください。

銘板



対応言語

L4705は以下の言語で公開されています。www.enerpac.comからダウンロードしてください。

- Další jazyky naleznete na adrese www.enerpac.com.
- Weitere Sprachen finden Sie unter www.enerpac.com.
- Para otros idiomas visite www.enerpac.com.
- Muunkieliset versiot ovat osoitteessa www.enerpac.com.
- Pour toutes les autres langues, rendez-vous sur www.enerpac.com.
- Per altre lingue visitate il sito www.enerpac.com.
- その他の言語はwww.enerpac.comでご覧いただけます。
- 이 지침 시트의 다른 언어 버전은 www.enerpac.com.
- Ga voor de overige talen naar www.enerpac.com.
- For alle andre språk henviser vi til www.enerpac.com.
- Inne wersje językowe można znaleźć na stronie www.enerpac.com.
- Para outros idiomas consulte www.enerpac.com.
- Per altre lingue visitate il sito www.enerpac.com.
- Информацию на других языках вы найдете на сайте www.enerpac.com.
- För andra språk, besök www.enerpac.com.
- 如需其他语言, 请前往 www.enerpac.com.

目次

1. 安全性.....	3
1.1 安全注意事項	3
2. 認証表示	5
2.1 国内および国際標準への準拠	5
3. 機能と部品	5
3.1 機能図.....	5
4. 製品技術データ.....	6
4.1 寸法図.....	6
4.2 寸法表.....	6
4.3 技術仕様.....	6
5. 操作.....	7
5.1 爪付ジャッキの開封.....	7
5.2 爪付ジャッキの移動.....	7
5.3 重量物を持ち上げる準備	7
5.4 油圧ポンプの要件	8
5.5 油圧オイルの要件	8
5.6 油圧接続部.....	8
5.7 エア抜き	8
5.8 初期セットアップ	8
5.9 TJP308の操作	9
6. 溜まっている圧力の解放.....	9
7. 点検、整備、保管	10
8. 部品リスト	11
8.1 メインアセンブリ.....	11
8.2 ハンドルとホイールアセンブリ	13
8.3 ベースアセンブリ	15
9. トラブルシューティング.....	16

1. 安全性

すべての説明をよくお読みください。人身傷害や製品の損傷、または物的損害を防ぐため、すべての推奨される安全注意事項に従ってください。Enerpacは、安全でない製品の使用、整備不良、誤った操作に起因する損害やけがに責任を負いません。警告ラベル、タグ、またはシールを取り外さないでください。疑問点がある場合や問題の生じた場合は、Enerpacまたはお近くのEnerpac販売店にご連絡いただき、内容を確認してください。

後で使用できるよう、これらの指示書を保管しておいてください。

高圧油圧機構の安全性についてのトレーニングを受けたことがない場合は、Enerpac油圧機構安全性コースの受講について販売店またはサービスセンターにお問い合わせください。

本取扱説明書では、安全警告記号、注意表現、安全メッセージを系統的に使用し、ユーザーに具体的な危険を警告しています。これらの警告に従わないと、死亡事故または重傷や機器または物的損害が生じることがあります。



安全警告記号は本取扱説明書全体で使用されます。この記号は身体的なけがの危険性があることを警告するために使用されます。安全警告記号に十分な注意を払い、この記号の後に記載されているすべての安全メッセージに従って、死亡事故または重傷の危険を回避してください。

安全警告記号は特定の注意表現と合わせて使用され、安全メッセージまたは物損メッセージに注意を喚起し、危険レベルを指定します。本取扱説明書で使用される注意表現は、「危険」、「警告」、「注意」、「注記」です。



危険 防止できなければ、死亡事故または重傷を引き起こすことになる危険な状況を示します。



警告 防止できなければ、死亡事故または重傷を引き起こす可能性のある危険な状況を示します。

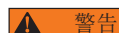


小心 防止できなければ、軽微なまたは中程度のけがを引き起こす可能性のある危険な状況を示します。



注意 重要と思われるが危険関連ではない情報を示します(財物に対する損害に関するメッセージなど)。安全警告記号はこの注記表現と同時に使用されないことに注意してください。

1.1 安全注意事項



以下の注意事項に従わないと、死亡事故または重傷を引き起こす可能性があります。物的損害が生じる可能性もあります。

- ポンプの操作または使用準備を行う前に、本取扱説明書に記載されている安全注意事項および指示内容をよく読み、十分に理解してください。本取扱説明書の操作手順に含まれるものも含め、常にすべての安全注意事項および指示内容に従ってください。
- 操作手順は、システムの配置によって異なります。動力パックおよびその他のデバイスを併用する際は、該当するすべてのメーカーの説明書をよく読んで理解し、必ずその内容に従ってください。メーカーの取扱説明書に記載されているすべての安全注意事項に従ってください。
- 手順の監督および実行は、研修を受けた経験のあるスタッフのみが担当するようにしてください。
- 油圧装置を操作するときは、必ず適切な人身保護具(P.P.E)を着用してください。保護めがね、保護手袋および防護服を着用してください。防塵マスク、滑り止め付きの安全靴、ヘルメット、聴覚保護具など、追加の人身保護用安全用具を状況に合わせて適宜使用することで、人身傷害の発生率が低下します。これらの用具の使用が現地の規制または法律で義務付けられる場合もあります。
- 圧力のかかったホースに手を触れないでください。高圧の作動油が噴き出し、皮膚に浸透する可能性があります。作動油が皮膚に入り込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。
- 連結していないカプラには圧力をかけないでください。油圧シリンダは連結システム内でのみ使用してください。カプラが接続されていないシリンダは絶対に使用しないでください。
- ポンプのリリーフバルブを取り外したり、無効化したりしないでください。
- すべての油圧コンポーネント(ホース、継手、カプラ)の定格が700 bar [10,150 psi] の安全動作圧力になっていることを確認してください。
- リリーフバルブを、ポンプの最大定格圧力を超える高圧に設定しないでください。複数の定格が存在する場合、リリーフバルブの設定が最も低い定格の構成部品の設定を超えないようにしてください。設定値が高い場合、機器の損傷や人身傷害が生じることがあります。
- システムの動作圧力は、システム内の最低定格構成部品の圧力定格を超えないようにしてください。システムに圧力ゲージを設置し、動作圧力を監視してください。これによりシステム内の状態を判断します。

- 油圧シリンダは連結システム内でのみ使用してください。カプラが接続されていないシリンダは絶対に使用しないでください。シリンダに過剰な負荷がかかると、構成部品が大きく損傷し、重大な人身傷害につながる可能性があります。
- 油圧ホースを取り外す、油圧継手を緩めるなど、解体や修理を行う前には必ず、油圧を完全に解放し、システムから荷重が完全に取り外されたことを確認してください。
- 稼働前に必ず装置の目視点検を行ってください。問題が見つかった場合は、使用しないでください。Enerpac認定サービスセンターで装置を修理し、テストを済ませてから再度稼働するようにしてください。
- 荷物を持ち上げる前に安定して設置されていることを確認してください。ジャッキは、荷重を支持できる平面上に配置してください。持ち上げ作業の現場がこの条件を満たさない場合は、平らなベースプレートとシムを使用してください。ベースやその他の支持材にジャッキを溶接するなどの改造を行わないでください。
- 重量物を持ち上げる前に支持脚を完全に伸ばし、適切な位置に固定しておかないと、重大な装置の損傷や人身事故が発生する恐れがあります。
- ジャッキの中心に荷重がかからない状態は避けてください。使用する各ジャッキのリフティングポイントは、持ち上げ作業を開始する前に、荷重にしっかり固定します。重心が偏ると、ジャッキに相当な負担がかかります。荷重が滑ったり落ちたりすれば、さらに危険が生じます。
- リフティングポイントの面全体に荷重を分散させてください。
- 荷重を支持するには、頑丈なブロックのみ使用してください。荷重を支持できるかどうか、スチール製または木製のブロックを慎重に選択します。油圧シリンダをシム、スペーサー、荷重支持具として使用しないでください。この指示に従わない場合、重大な人身事故や機器の損傷が生じる恐れがあります。
- 油圧装置で支持されている重量物には近づかないでください。ジャッキは持ち上げのみを目的としており、荷重保持の道具としては使用しないでください。昇降した後の荷重は、必ず物理的に固定してください。
- 人身傷害のリスクを最小限に抑えるため、運転中は手や足を装置やワークピースから離しておいてください。
- 可動部品や圧力のかかったホースに手を触れないでください。
- 内面は高温です。火傷の恐れがあります。絶対に触れないでください。冷却してから整備してください。



小心

以下の注意事項に従わないと、軽微なまたは中程度のけがを引き起こす可能性があります。物的損害が生じる可能性もあります。

- 油圧ホースを傷つけないよう注意してください。油圧ホースのルーティング時はホースの極端な曲げやねじれを避けてください。ホースメーカーが指定する最小曲げ半径を超えないでください。曲がったりねじれたりしたホースを使用すると、強度の背圧の原因となります。極端な曲げやねじれは、ホースの内側の損傷を引き起こし、ホースの早期不具合につながります。
- ホースの上に重い物体を落下させないでください。鋭い衝撃を加えると、ホースのワイヤー線が損傷する場合があります。損傷したホースに圧力を加えると、破裂する可能性があります。
- 油圧ホースやカプラをつかんで油圧装置を持ち上げないでください。必ず、指定されたキャリングハンドルまたはリフティングポイントを使用してください。
- 油圧装置に炎や熱源を近づけないでください。過剰な熱によりパッキンやシールが柔らかくなり、液漏れが生じます。熱は、ホースの素材やパッキンの強度も低下させます。
- 最適な性能を得るには、油圧装置を65°C [150°F] 以上の高温の場所に置かないでください。すべての油圧装置を溶接スパッタから保護してください。

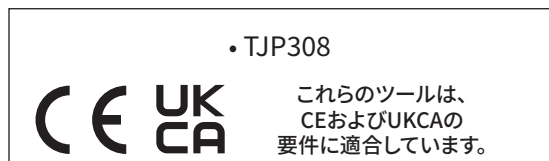
注意

以下の注意事項に従わないと、物的損害や製品保証の無効などを引き起こす可能性があります。

- 摩耗あるいは損傷した部品は、速やかにEnerpacの純正部品と交換してください。Enerpacの部品は、正しく適合し、高負荷に耐えるよう設計されています。Enerpac純正でない部品を使用すると、製品の破損や誤作動の原因となります。
- 油圧装置の整備は、必ず資格のある油圧技術者が実施してください。修理の場合は、地域のEnerpac認定サービスセンターにお問い合わせください。
- 正しい動作と最大限の性能を確保するため、Enerpac純正オイルを強く推奨いたします。

2. 認証表示

2.1 国内および国際標準への準拠



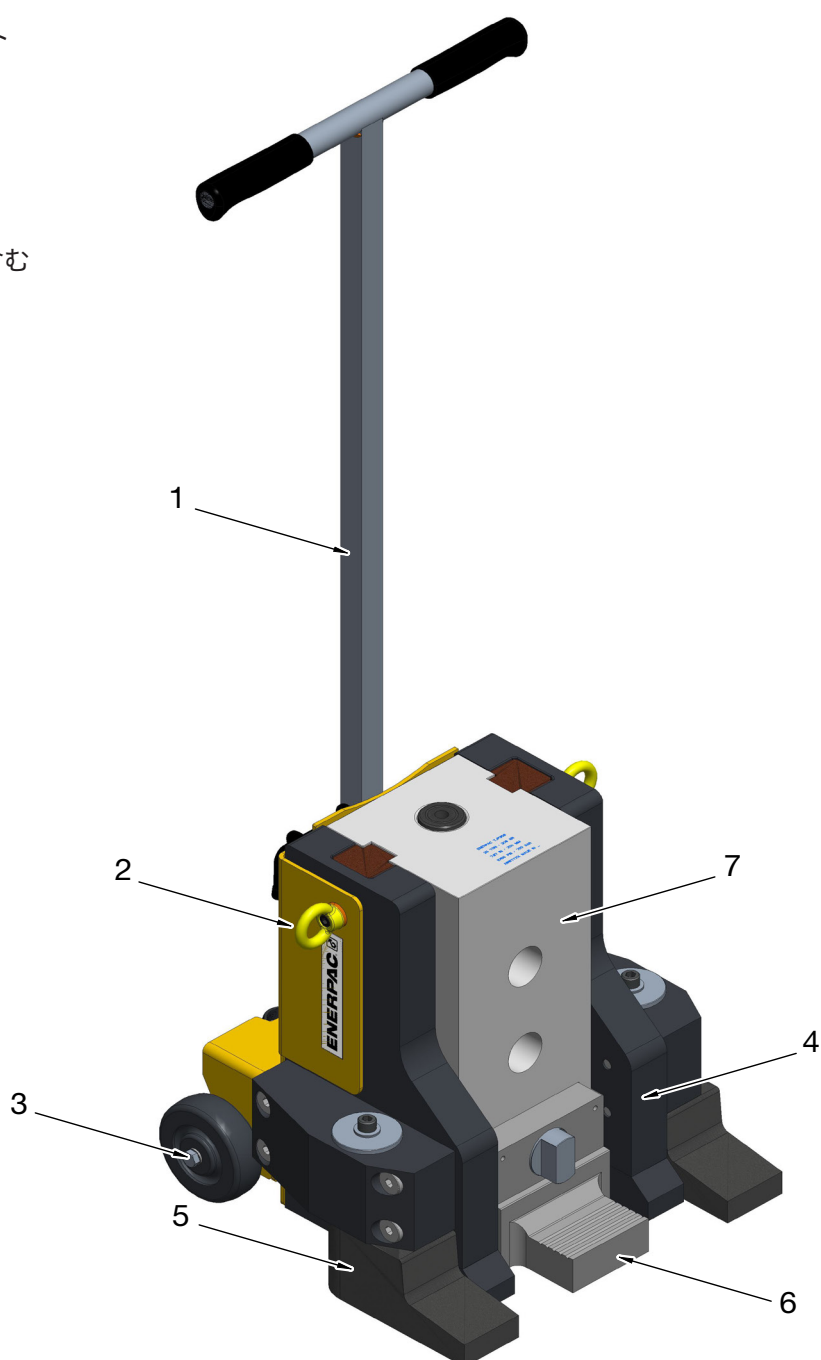
Enerpacは、本製品が適用規格に従ってテストされ、当該規格に準拠していること、およびすべてのEUならびに英国の要件に適合していることを宣言します。

EU宣言書ならびにUK適合自己宣言書のコピーが出荷製品に同梱されています。

3. 機能と部品

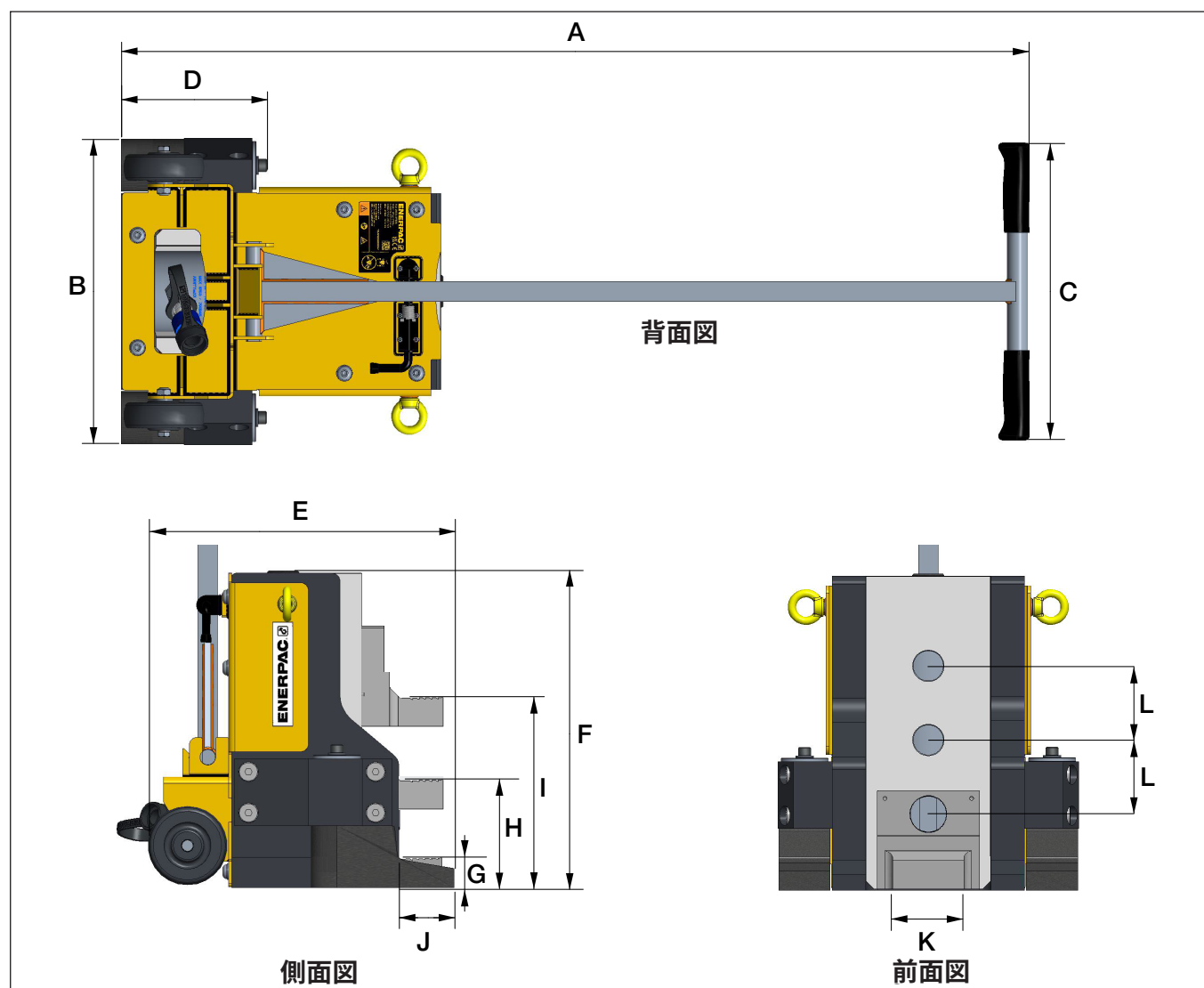
3.1 機能図

1. 移動ハンドル
2. リフティングアイボルト
3. ホイール
4. ベースアセンブリ
5. サポート脚部
6. 持ち上げ爪
7. 昇降機構、持ち上げシリンダを含む



4. 製品技術データ

4.1 寸法図



4.2 寸法表

	mm	インチ
A	1117	44.0
B	382	15.0
C	370	14.6
D	182	7.1
E	388	15.3
F	401	15.8
G	37.4	1.47
H	141.4	5.17
I	225.4	8.87
J	70	2.8
K	90	3.5
L	94	3.7

4.3 技術仕様

	メートル法	ポンド・ヤード法
最大圧力	700 bar	10,150 psi
最大荷重	309 kN	35トン
受圧面積	44.2 cm ²	6.85 in ²
爪の位置1 (G)	37.4 mm	1.47 in
爪の位置2 (H)	131.4 mm	5.17 in
爪の位置3 (I)	225.4 mm	8.87 in
ストローク	200 mm	7.87 in
オイル容量	884 cm ³	54 in ³
重量	80 kg	176.37 lbs

5. 操作

5.1 爪付ジャッキの開封

TJP308爪付ジャッキは2本のリフティングアイボルトを備えています。爪付ジャッキの開梱時や吊り上げ時には、必ず両方のリフティングアイボルトを使用してください。

持ち上げ用のストラップやチェーンは爪付ジャッキの基部に引っかからない角度で取り付けてください。スプレッターバーの利用をお勧めします。図3を参照してください。

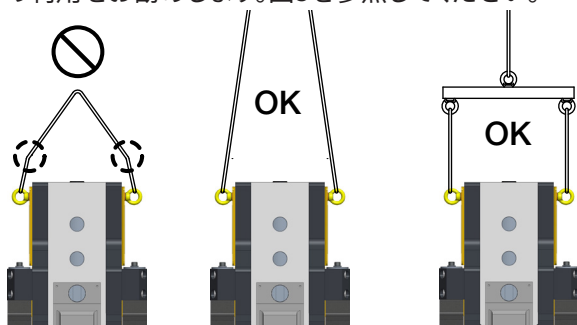


図1: 持ち上げの準備

注意

リフティングアイの代わりとなるキャリングハンドルもオプションキットとしてご用意しています。セクション8.2のサイドハンドルキット - RKTJP308SHを参照してください。

5.2 爪付ジャッキの移動

安全で正確に操作するには、2つのハンドル位置があります。

爪付ジャッキを移動させるときは、ハンドルを垂直にします。

爪付ジャッキに荷重をかけるときは、ハンドルを傾斜させます。ハンドルを下げるには、爪付ジャッキ後部の固定ピンのロックを外します。



図2: ハンドル位置

ハンドルを垂直にした後は、必ず固定ピンを完全にロックしてください。

警告

ハンドルから爪付ジャッキを持ち上げないでください。

ハンドルは本体の所定の位置に取り付けます。保管の際はハンドルを取り外します。再び取り付けるときは、チューブを正しい位置に挿入し、平らな面を正しい向きにします。

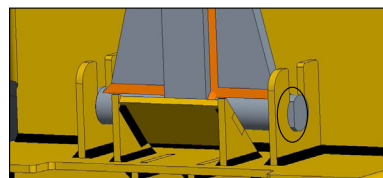


図3: ハンドルの取り付け

5.3 重量物を持ち上げる準備

警告 小心

ベースをしっかり支持してください。TJP308は、沈下せずに荷重を支えられる平坦で安定した床面に置いてください。爪付ジャッキを、砂、泥、土などの上で使用すると、荷重が落下したりジャッキが損傷したりする恐れがあります。



図4: 爪の中心に荷重を載せる

持ち上げる荷重が、支持の状態によって許容される最大荷重よりも小さいことを確認してください。

- 爪の許容最大荷重（位置を問わない）: 25 t [27トン]

警告

爪を使用する際には、荷重が爪の全面にかかるようにしてください。

- 上部の最大荷重: 32 t [35トン]

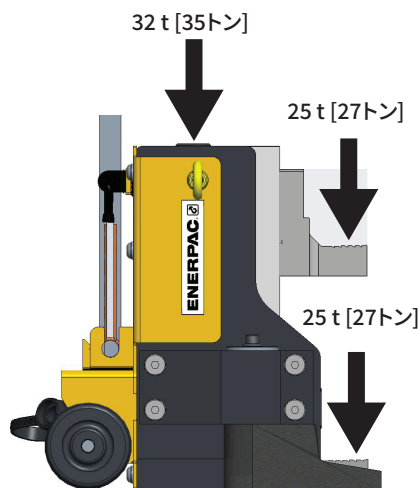


図5: 最大荷重

5.4 油圧ポンプの要件

油圧ポンプは別売りです。爪付ジャッキには含まれません。いずれのポンプを使用する場合でも、接続した爪付ジャッキ (1台または複数) を完全に伸長させるだけのオイルがポンプ容器に入ることを確認します。

ポンプは作業に適したものを選んでください。また、システムの動作圧力が700 bar [10,150 psi] を超えた場合に開くリリーフバルブを装備している必要があります。

5.5 油圧オイルの要件

EnerpacのHF ISO 32の油圧オイルを推奨します。Enerpac HFオイルは、最寄りのEnerpacの販売店、またはEnerpacの認定サービスセンターでご購入いただけます。

注意

- 正しいオイルタイプ (ISO 32の高品質油圧オイル) を使用しない場合、シリンダの油圧部品が損傷する恐れがあります。これは製品保証の対象となりません。
- オイルが清潔であることを確認してください。オイルの清潔さは、ISO 4406規格に従い、最大レベル18/16/13に維持してください。オイルが濁ったり色が濃くなったりした場合は、速やかに交換してください。
- オイルの入れすぎや機器の損傷を避けるため、ポンプ容器にオイルを補充する際は、必ずすべてのシリンダプランジを完全に戻し、システムの圧力を抜きます。
- 手動ポンプを使用してシリンダを駆動する場合は、高品質ブランドのISO 16油圧オイルも許容されます。特に低温時には、粘度の低いオイルの方が少ない労力でポンピングを行うことができます。

5.6 油圧接続部

TJP308は持ち上げ作業に単動シリンダを使用します。単動式シリンダには2ウェイバルブとホース1本のポンプを使用してください。

すべてのカプラがしっかりと接続され、油圧の流れが妨げられたり、制限されたりしないことを確認します。ホース、継手、回路内の油圧部品はすべて、定格700 bar [10,150 psi] 以上が必要です。

システムに漏れがないことを点検し、修理は有資格者に依頼してください。

注意

ホースを接続する前にポートの圧力を手動で解放するには、モーターのスイッチを切り、手動バルブのレバーを前進と後退の位置に数回動かします。ソレノイドバルブの場合は、前進/格納を押してください。

5.7 エア抜き

システムの稼働前に、爪付ジャッキの油圧シリンダとホースに残っている空気を抜く必要があります。複数のシリンダを使用する場合は、シリンダ1本ずつエア抜きすることを推奨します。次の手順を参照してください。

- 爪付ジャッキの前面を下にして置きます。昇降機構に荷重がかかっていないことを確認してください。
- 爪付ジャッキよりも高い位置に油圧ポンプを配置します。
- シリンダのプランジを完全に前進させ、後退させます。完全に伸ばした状態で圧力をかけないように注意してください。シリンダのプランジがスムーズに往復するまでこれを繰り返します。
- エア抜き作業が完了したら、プランジを完全に戻します。ポンプの油圧容器のオイル量を確認してください。オイル量が少ない場合は、オイルを追加してください。
- 油圧回路で使用するすべての爪付ジャッキに1~4の手順を繰り返します。

注意

オイルをポンプ容器に補充する際は、ポンプメーカーの指示書に従ってください。オイルの入れすぎを防ぐために、オイルを追加する前に、プランジが完全に格納されていることを確認してください。

5.8 初期セットアップ

5.8.1 爪の位置の設定

爪には3つの位置があります：

- 爪の位置1 (下) : 37.4 mm [1.47 in]
- 爪の位置2 (中) : 131.4 mm [5.17 in]
- 爪の位置3 (上) : 225.4 mm [8.87 in]

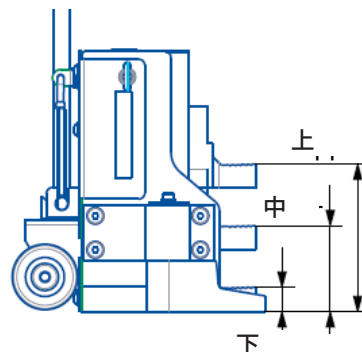


図6: 爪の位置 (高さ)

爪の位置を変更するには、爪 (部品2) が完全に外れるまで、ピン (部品1) を反時計方向に回します。

爪を必要な位置に固定し、爪と本体の間に大きな隙間がなくなるまで、ピンを手で締めます。

爪が自由に回転することを確認します。爪が自由に回転しない場合は、ピン (部品1) を少し緩め、爪をできるだけ本体に近づけてください。



警告

爪の回転を妨げないこと。どの位置に取り付けた場合でも回転することを確認してください。

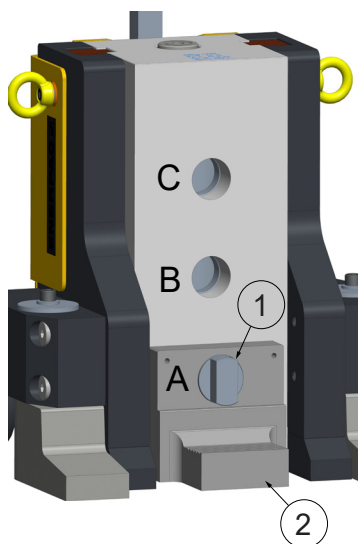


図7: 爪の位置

5.8.2 脚部の位置の設定

脚部は軸を中心に180度回転します。工具なしで手で回転が可能です。ねじは工場出荷時に2 Nmで締められています。

爪で荷重を持ち上げる場合は、両方の脚部を正面に向けます。本体の上部で荷重を持ち上げる場合は、脚部が横を向いていてもかまいません。

警告

爪に荷重がかかっているときは、ラベルに記載のとおり脚部が正面を向いている必要があります。脚部が他の位置にあるときに爪に荷重をかけると、人身事故が生じる恐れがあります。

上部で荷重を持ち上げる場合のみ、安定性の観点から脚部を横向きにすることが可能です。



図8: 脚部の位置

5.9 TJP308の操作

操作手順は、油圧ポンプのタイプ、バルブ構成およびその他の要因によって異なります。詳細な操作手順と関連情報については、お使いのポンプに同梱されている取扱説明書を参照してください。

複数のジャッキを使用する場合：荷重をかけず制御バルブを操作し、すべてのシリンダプランジャが同時に前進、格納されることを確認します。必要であれば、油圧ホースの圧力を抜き、逆になっているホースを接続し直してください。

注意

強力な油圧装置を操作するオペレーターは、必ず事前にすべての取扱説明書、安全事項、適用される安全規制を十分に理解する必要があります。サポートが必要な場合は、最寄りのEnerpacの販売店、または認定サービスセンターにお問い合わせください。

警告

重大な人身傷害を防ぐために、シリンダの動作中は指や手などの身体の部位を稼働部分に近づけないでください。

警告

爪を使用する場合、荷重はできるだけピンに近づけて配置します。人身事故や物的損害を防ぐため、爪の全面に荷重をかけるようにします。

警告

上部で持ち上げる場合、荷重はサドルで支えます。

警告

爪の最大傾斜角度は5°です。この値を超える傾斜角度で爪に荷重をかけると、人身事故や物的損害が発生する恐れがあります。

持ち上げる場合：加圧されたオイルが制御された速度でポンプ容器からジャッキのシリンダカプラへ流れるよう、ポンプとバルブを操作します。

下げる場合：シリンダプランジャはスプリング戻しによって初期位置に戻ります。荷重のかかったプランジャの格納速度を制御するには、追加の油圧構成部品が必要となる場合もあります。

6. 溜まっている圧力の解放

油圧ジャッキのシリンダ内に油圧が溜まる場合があります。これは、単動式と複動式のいずれのシリンダでも起こりますが、複動式のシリンダが外気温の急激な変化にさらされた場合に最も起こりやすくなります。

ホースとシリンダカプラの合わせ面がしっかり噛み合わない場合、あるいは通常と比べて噛み合いにくい場合は、一般的に、圧力が溜まっていると考えられます。

圧力が溜まった状態が疑われる場合は、必ずEnerpacモデルCT-604カプラブリードツール (Enerpacの販売店からご購入いただけます) を使用して、残っている圧力を安全に解放してください。



警告

シリンダ内に溜まった油圧を、シリンダベース上のカブラを緩めることで解放しようとししないでください。

油圧が溜まると、緩んだカブラが突然外れ、大きな力を発する場合があります。カブラが飛散して作業中のスタッフにぶつかると、重大な人身傷害または死亡事故が生じます。

カブラが緩んでいて油圧が溜まっている状態の場合、圧力のかかった油圧オイルを急に抜いても、このような状態が生じる可能性があります。高圧のオイル蒸気が肌に触れると、重大な人身傷害または死亡事故が生じる恐れがあります。

シリンダ内に溜まった油圧を解放する場合は、必ず Enerpac CT-604カブラブリードツールを使用してください。



警告

ハンマーやポンチを使って(あるいはその他の類似の方法で)圧力がかかったカブラチェックコーンを動かそうとしないでください。高圧のオイルが予期せず急に抜けることで、重大な人身傷害または死亡事故が生じるおそれがあります。シリンダ内に溜まった圧力を解放する場合は、必ず Enerpac CT-604カブラブリードツールを使用してください。

7. 点検、整備、保管

- 油圧システムに接続部の緩み、漏れ、その他の問題がないか、定期的に確認してください。損傷した構成部品があれば交換してください。
- 運転中はオイル温度をモニタリングしてください。温度が60°C [140°F] を超えないようにしてください。
- 油圧ホースをシリンダから取り外した後は、カブラにダストキャップを取り付けます。
- すべての油圧構成部品を清潔に保ってください。
- 油圧オイルは、ポンプの取扱説明書に記載されている推奨間隔で交換してください。汚染の兆候がある場合は、速やかにオイルを交換します。
- ジャッキとシリンダは、清潔で乾燥した安全な場所で保管してください。シリンダやホースは、熱源の近くや直射日光のあたる場所に保管しないでください。
- 持ち上げプレートのガイドには常にグリースを塗っておいてください。
- 修理が必要な場合は、Enerpacのウェブサイトで各TJP308爪付ジャッキに対応する交換用部品の情報を確認してください。

注意

油圧装置の整備は、必ず資格のある油圧技術者が実施してください。修理の場合は、地域のEnerpac認定サービスセンターにお問い合わせください。

8. 部品リスト

次の文字から始まる製品日付コード:A

8.1 メインアセンブリ

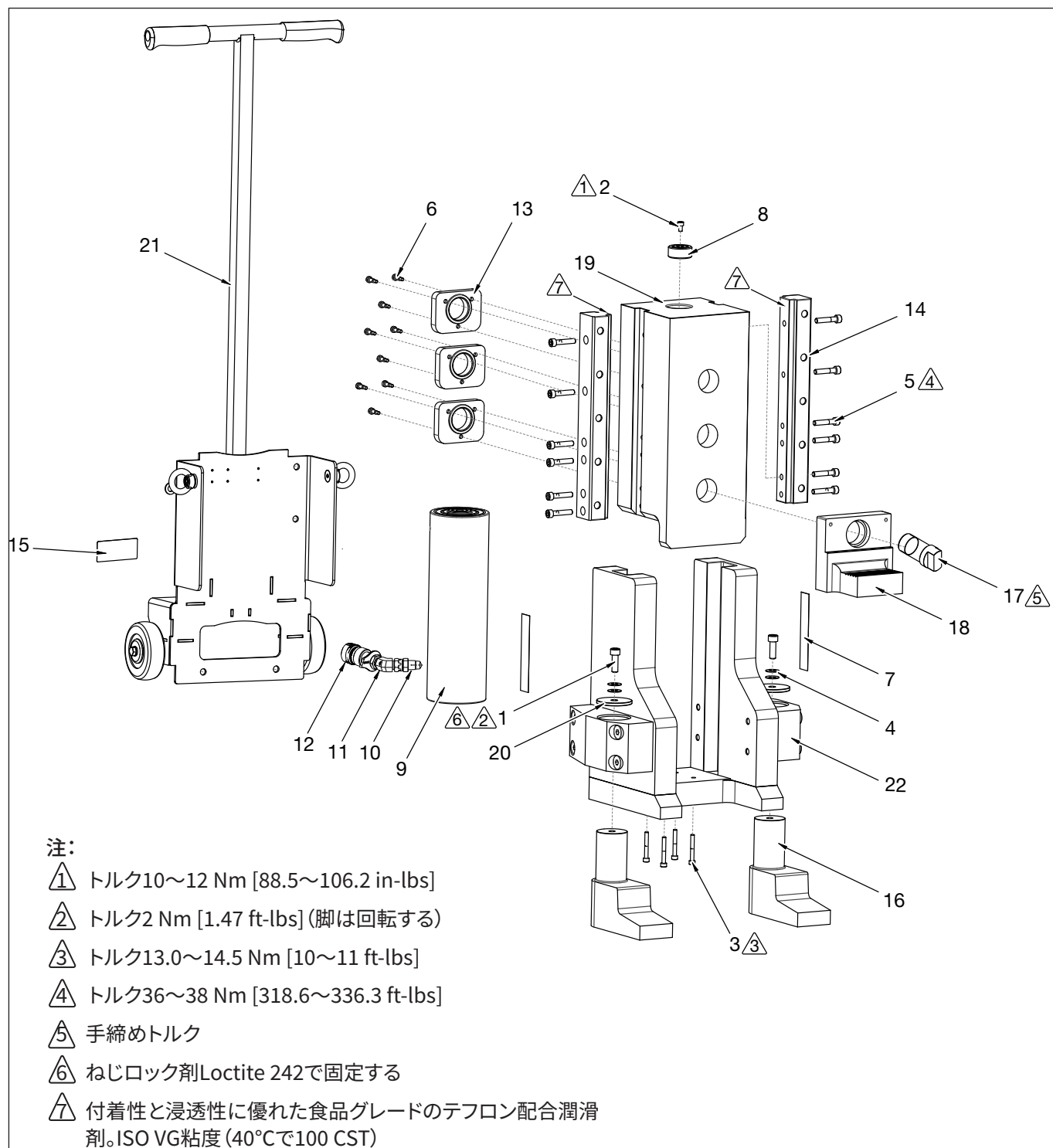


図9: メインアセンブリ分解図

メインアセンブリの補修部品リスト			
品目	説明	数量	部品番号
1	M10x30 SHCSねじ	2	◆
2	M6x10 SHCSねじ	1	CBE615028-1A
3	M6x45 SHCSねじ	4	CBE631028-1A
4	スプリングディスク	4	◆
5	M8x40 SHCSねじ	12	■
6	M5x12 SHCSねじ	9	●
7	Enerpacシール 5.19 × 1.00	2	G424026
8	サドル	1	RAC20045
9	アルミニウムシリンダ 30T 200mmストローク	1	RAC308
10	継ぎ手	1	CU235096
11	スイベル継ぎ手	1	FZ1660
12	メスカプラ	1	CR400
13	ナット	3	●
14	ブロンズガイド	2	■
15	シール、爪付ジャッキ	1	RKTJP308D
16	サポート脚部、爪付ジャッキ30トン	2	◆
17	ピン	1	RKTJP308P
18	持ち上げ爪、30トン	1	RKTJP308T
19	昇降機構、爪付ジャッキ30トン	1	TJP308101-5
20	メカニカルプラグ	2	◆
21	ハンドルとホイールアセンブリ	1	□ (セクション8.2を参照)
22	ベースアセンブリ、爪ベース	1	セクション8.3を参照
■ ブロンズガイドキット - RKTJP308B (ねじ4本を含む) の一部としてのみ提供 ◆ 脚部キット - RKTJP308L (交換用脚部1本の部品を含む) の一部としてのみ提供 ● ナットキット - RKTJP308N (交換用ナットの部品を含む) の一部としてのみ提供 □ シートメタルキット - RKTJP308Sの一部としてのみ提供			

8.2 ハンドルとホイールアセンブリ

注:

① トルク10~12 Nm [7.37~8.85 ft-lbs]

② トルク30~40 Nm [22.1~29.5 ft-lbs]

③ ねじロック剤Loctite 242で固定する

④ オイルワックスを塗る

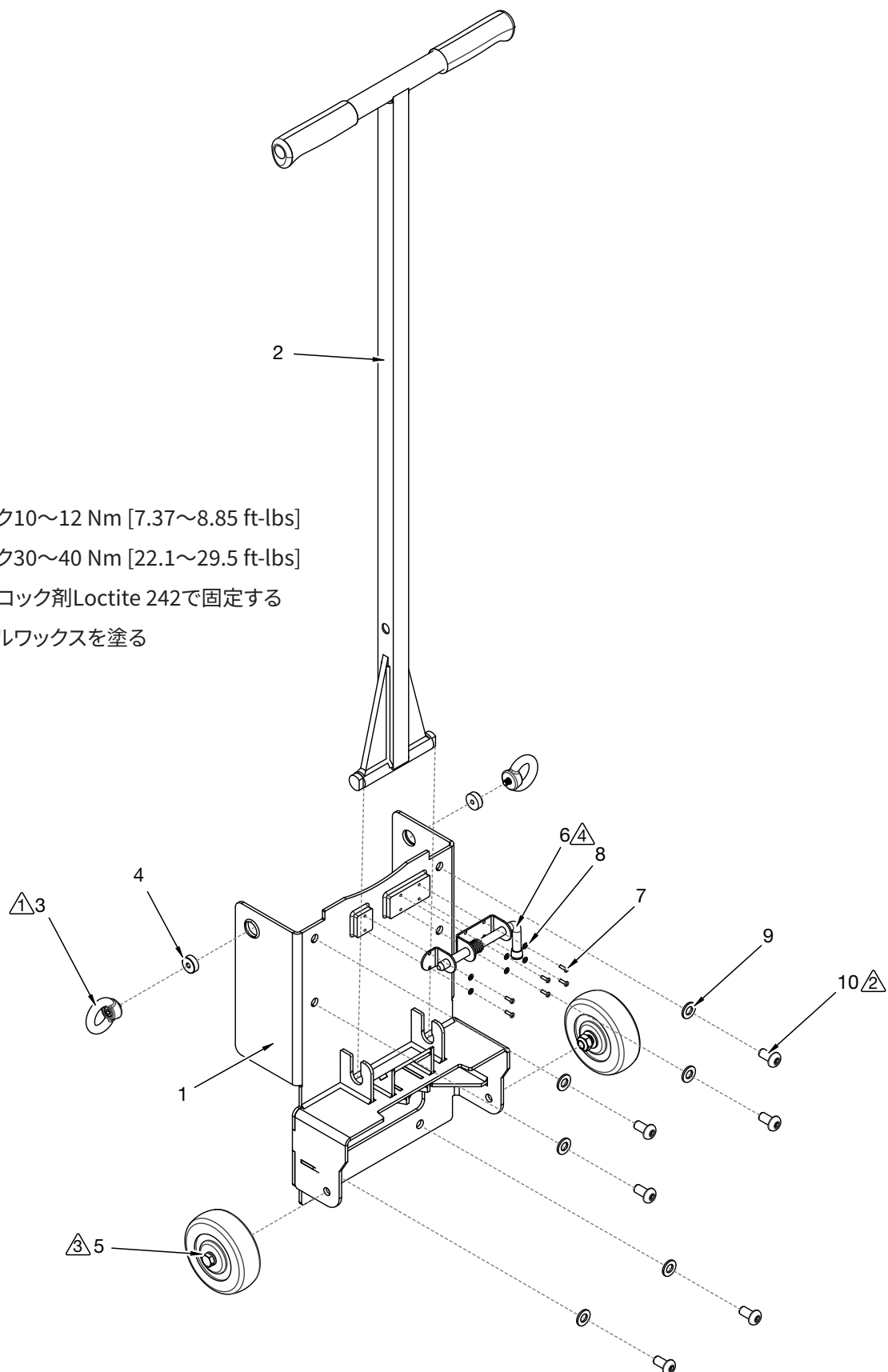


図10: ハンドルとホイールアセンブリ分解図

ハンドルとホイールアセンブリの補修部品リスト			
品目	説明	数量	部品番号
1	プレートベース	1	該当なし
2	ハンドル	1	RKTJP308H
3	M6アイボルト	2	DB8099667 ❖
4	シャフト直径20	2	TJP106104
5	ギアアセンブリ	2	RKTJP308W
6	ラッチピンアセンブリ	1	◆
7	M3x0.5 BHCSねじ	6	◆
8	ワッシャー	6	◆
9	ワッシャー	6	CAE1100108-1A
10	M10x1.5 BHCSねじ	6	CBA1021028-1E
❖ オプション交換: キャリーハンドルはサイドハンドルキット - CHM6として提供			
◆ ラッチピンキット - RKTJP308LPの一部としてのみ提供			

8.3 ベースアセンブリ

注:

- ① トルク150 Nm [110.63 ft-lbs]
- ② トルク51～60 Nm [37.3～44.2 ft-lbs]
- ③ ねじロック剤Loctite 242で固定する
- ④ トルク100 Nm [73.7 ft-lbs]

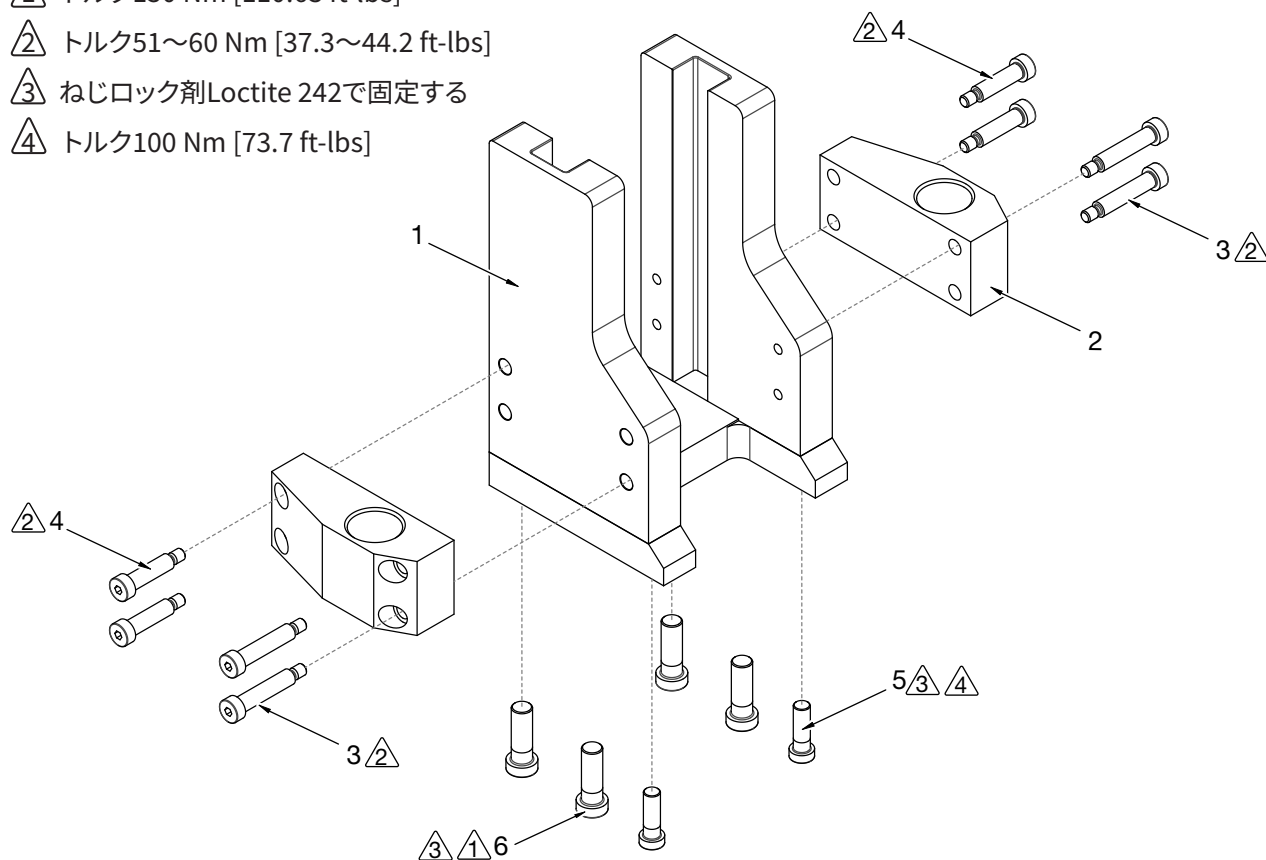


図11: ベースアセンブリ分解図

ベースアセンブリの補修部品リスト			
品目	説明	数量	部品番号
1	ベース	1	該当なし
2	脚部サポート	2	TJP308101-4
3	M12x70 SHCねじ	4	DB9594028
4	M12x55 SHCねじ	4	DB9593028
5	M16x2 LHCSねじ	2	CBA1633028-1D
6	M20x2.5 LHCSねじ	4	CBA2034028-1D

9. トラブルシューティング

ジャッキシリンダの操作上の問題を診断する際は、トラブルシューティングガイドを参照してください。トラブルシューティングガイドではすべての症状が網羅されているわけではありませんので、よくある問題の診断の一助として利用するようにしてください。修理の場合は、最寄りのEnerpac認定サービスセンターにお問い合わせください。必要に応じて、お使いの油圧ポンプや電源ユニットのトラブルシューティング情報も参照してください。

トラブルシューティングガイド		
症状	考えられる原因	解決方法
シリンダが前進しない、ゆっくりあるいは急激に前進する。	a. ポンプ容器内のオイル量が少ない。	a. ポンプにオイルを追加します。
	b. リリースバルブが開いている。	b. ポンプのリリースバルブを閉じます。
	c. 油圧カプラが緩い。	c. すべてのカプラがしっかり締まっていることを確認します。
	d. システム内に空気が入っている。	d. 空気を抜きます (セクション4.3を参照)。
	e. シリンダプランジャがバインドしている。	e. シリンダに損傷がないか確認します。Enerpac認定サービスセンターにシリンダの修理を依頼してください。
シリンダーは前進するが、圧力が維持されない。	a. 油圧接続部の漏れ。	a. すべての接続部がしっかり締まっていることを確認します。
	b. シール部の漏れ。	b. 漏れの個所を突き止め、Enerpacサービスセンターに修理を依頼してください。
	c. ポンプ内部の漏れ。	c. Enerpac認定サービスセンターにポンプの修理を依頼してください。
シリンダーが格納されない、途中まで戻る、あるいは格納速度が通常よりも遅い。	a. リリースバルブが閉じている。	a. ポンプのリリースバルブを開きます。
	b. ポンプ容器内のオイル量が多すぎる。	b. 満杯の位置までオイルを排出します。
	c. 油圧カプラが緩い。	c. カプラがしっかり締まっていることを確認します。
	d. システム内に空気が入っている。	d. 空気を抜きます (セクション5.4.1を参照)。
	e. シリンダへのオイルの流れが妨げられている。	e. カプラが正しく接続され、しっかり締まっていて、バルブが正しく機能することを確認します。
爪を別の位置に取り付けることができない。	a. ピンをねじ込むことができない。	a. 定期的なメンテナンスを行います。ピンとナットのねじ山を清掃します。必要に応じて部品を交換します。

